

うっしっしいー情報2023

10月市



豊岡農業改良普及センター

10月11日に行われましたセリ市全体の平均価格は、去勢が89万1千円、雌が76万6千円でした。

普及センター調べ（税込価格）

（雄を除くため、JA公表数値とは異なります。検定牛込みの結果です。）

地域	去勢			雌			総計	
	頭数	DG	平均価格	頭数	DG	平均価格	頭数	平均価格
赤佐	3	0.946	868,633	7	0.878	740,300	10	778,800
丹波篠山	6	0.980	941,233	1	0.760	1,013,100	7	951,500
丹波	11	0.962	932,400	14	0.833	734,879	25	821,788
朝来	9	1.006	896,011	4	0.895	788,700	13	862,992
播磨	16	0.882	814,756	15	0.770	578,967	31	700,665
美方郡	69	0.956	895,814	42	0.883	838,514	111	874,133
豊岡	22	0.959	866,150	16	0.858	732,463	38	809,861
養父	24	0.956	946,917	24	0.892	846,588	48	896,752
摂津・神戸	13	0.996	867,646	14	0.844	672,807	27	766,619
県北C	6	0.956	844,067	-	-	-	6	844,067
市場全体	179	0.956	891,320	137	0.860	766,403	316	837,163

10月市種雄牛ランキング

順位	種雄牛	去勢			雌			総計	
		頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均DG	平均価格	頭数	平均価格
1	山伸土井	20	1.024	927,135	14	0.941	813,371	34	880,291
2	丸若土井	20	0.958	937,145	19	0.872	817,358	39	878,787
3	茂東波	9	0.967	909,089	7	0.838	800,800	16	861,713
4	丸彩土井	8	0.933	882,338	4	0.832	818,400	12	861,025
5	勝脇土井	8	0.975	931,700	9	0.847	786,744	17	854,959
6	忠味土井	21	0.930	906,086	18	0.877	780,939	39	848,326
7	藤彦土井	22	0.927	883,500	10	0.831	735,790	32	837,341
	総計	179	0.956	891,320	137	0.860	766,403	316	837,163
8	照和土井	15	0.973	873,033	9	0.892	776,600	24	836,871
9	丸春土井	14	0.916	889,507	10	0.825	734,250	24	824,817

価格は税込み (10頭以上の出荷があった種雄牛のみ記載)

ランキング種雄牛の育種価

※検定牛込みの結果です

	種雄牛	枝肉重量	ロース芯面積	バラの厚さ	皮下脂肪厚	歩留	脂肪交雑
1	山伸土井	A → A+	A++	D	A+	A+	A
2	丸若土井	A → B	A++ → A+	A++	A → A+	A++	A+
3	茂東波	-	-	-	-	-	-
4	丸彩土井	B	B	A++	C	A	C
5	勝脇土井	-	-	-	-	-	-
6	忠味土井	B	A+	A	B → C	A+ → A	A+
7	藤彦土井	A+	A	C	D	D	A
8	照和土井	A+ → A++	A	B	A → B	A → B	A
9	丸春土井	C	B	C	B	B	A+



バックナンバー
はここから

北部農業技術センター提供 (育種価評価は令和5年9月現在)

冬はすぐそこ！子牛の防寒対策をしましょう

1 哺乳子牛の生産環境限界温度は5℃

これまで経験したことのない猛暑がようやく過ぎたかと思うと、急に気温が下がりはじめました。

哺乳子牛は育成牛と繁殖牛に比べて寒さに弱いです。哺乳子牛の適温域(牛が健康に生活し、生産を正常に行うことができる望ましい環境温度の範囲)は13~25℃で、5℃以下の低温になると生産環境限界温度(牛の活動に影響が出る温度)を超えます(表1)。寒くなると、子牛は体温を維持するためのエネルギーを余分に必要とするため、エネルギー不足に陥り体の成長に影響を及ぼす可能性があります。また、免疫力が低下し肺炎や下痢などの病気につながることもあるため、防寒対策を徹底しましょう。

県内では、年や地域によって差はありますが、早いところでは10月上旬には最低気温が13℃を下回ります。但馬地域では、今年すでに最低気温 13℃以下を記録した地域もあります。また、**過去30年間で、「最低気温5℃以下の日」があった時期は、10月下旬から5月上旬であり、約半年間は防寒対策を続けることが大切**です(表2)。

表1 肉用牛の適温域と生産環境限界温度

	適温域(℃)	生産環境限界温度(℃)	
		低温	高温
哺乳子牛	13~25	5	32
育成牛	4~20	-10	32
繁殖牛	10~15	-10	30
肥育牛	15~25	5	30

表2 「最低気温が5℃以下の日」があった時期
(1993年~2023年)

地域	時期
香住	11月下旬 ~ 4月下旬
豊岡	11月中旬 ~ 4月下旬
和田山	11月上旬 ~ 5月上旬
柏原	10月下旬 ~ 4月下旬
姫路	11月中旬 ~ 4月中旬

2 子牛の防寒対策

子牛の防寒対策については、直近の家畜市場だよりでは平成30年10月号や、令和3年11月号でもお伝えしてきました。子牛の防寒対策の基本は、**子牛の保温、牛床や敷料の乾燥、すきま風防止**などの対策を組み合わせ寒さを防ぐことです。

特に、夜間など寒さが厳しい時は、ヒーターなどの暖房器具での保温が有効です。ただし、暖房器具のそばに燃えやすいものを置くのは厳禁で、畜産用ではない投光器などの使用は、落下による火事の恐れがあるので使用は控えましょう。暖房器具は、火事防止のため、万が一の落下時に電源オフ機能があるものや、温度が上がりすぎない機能があるものを選び、説明書に従って適切に設置しましょう。

また、冬場は牛舎を閉め切ることが多くなりますが、**牛舎を閉め切るとふん尿から発生するアンモニアガスやほこりなどによって呼吸器病の原因にもなるため、日中だけでも換気することが重要**です。

3 子牛舎に畜産用赤外線ヒーターを設置した事例の紹介

今回は、防寒対策として、子牛舎に畜産用赤外線ヒーター(以下、「ヒーター」と記載)を設置した事例を紹介します(写真1)。

ある牧場で12月中旬、子牛舎にヒーターを設置しました。その結果、1時間後には、1頭目がヒーターに気付き、ヒーター下に横になりました。設置 17 時間後(翌朝)には、子牛全頭がヒーター下に横になる様子が見られました(写真2)。

サーモグラフィカメラで設置場所周辺の温度を測定したところ、ヒーターがない牛床温度は4℃以下でした(写真3)が、ヒーターがある牛床の温度は10℃以上ありました(写真4)。ヒーターがない牛床温度は哺乳子牛の生産環境限界温度以下でしたが、ヒーターを設置することで、適温域に近い環境が実現できました。

また、ヒーターを設置した牧場の1~3月期の子牛の疾病発生状況を確認したところ、設置した年は過去2年間と比べて疾病発生数が減少し、不調が長引くことなく、ヒーターの効果を確認することができました。



写真1 畜産用赤外線ヒーター
(写真はイメージです)



写真2:設置 17 時間後(翌朝)

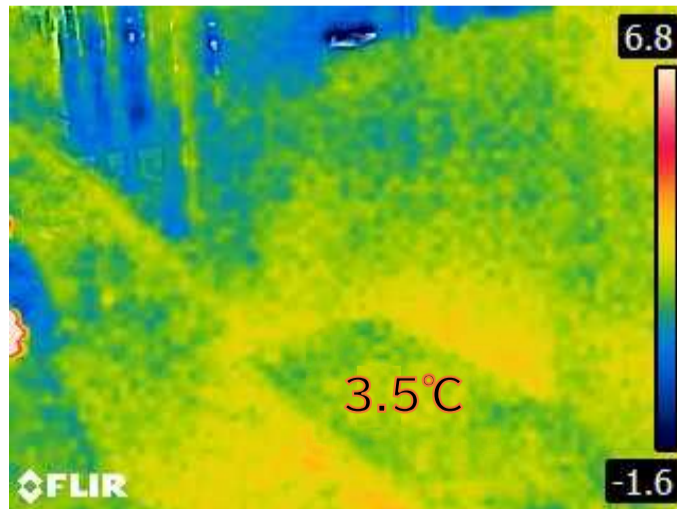


写真3:ヒーターがない牛床の温度は4℃以下
(サーモグラフィカメラ画像)

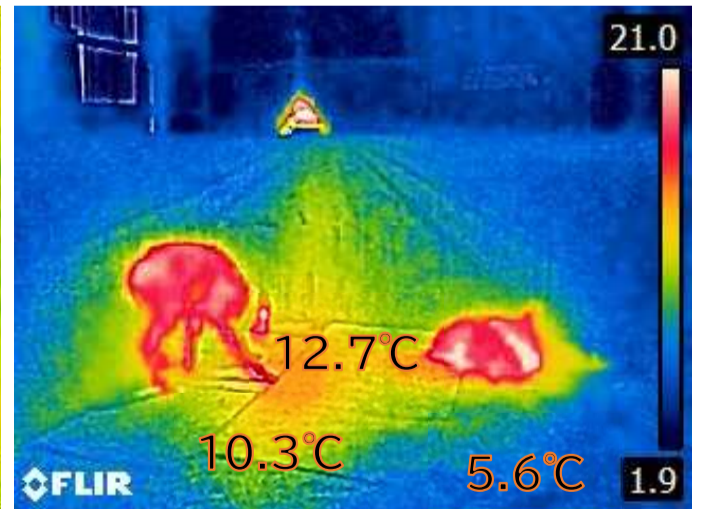


写真4:ヒーターがある牛床の温度は 10℃以上
(サーモグラフィカメラ画像)

子牛は非常に寒さに弱いです。本格的な寒さが到来する前に、防寒設備や暖房器具を点検し、**今一度防寒対策を見直すなど、子牛にとって快適な環境を整えましょう！**